



和泉 恭正地域のちから推進部部长(左)、林 太一あだちサークルフェア2016実行委員会委員長、平野 昌暁生涯学習センター所長のテープカットでオープニングしました。



雨にも負けず…。あだちサークルフェアは大賑わいの二日間でした。



今年で八回目を迎えた「あだちサークルフェア」は二日間ともあいにくの雨でしたが延べ二万五千人を超えるお客様にいらしていただきました。若さあふれるダンスから熟練の舞踊、繊細で美しい展示物と多くの方にご満足いただけたと思います。

ナマガくんがお出迎えする一階ウェルカムランドでバルーンアートや健康チェック、四階わくわくランドでは輪投げや玉入れゲームが行われました。五階の体験ランドでは科学実験、カレンダー作り、鉄道ジオラマ、紙相撲千住場所なども人気でした。有名テーマパークのチケットが当たる抽選会にも多くの方が並ばれていました。

今年も一円玉アート募金にご協力ありがとうございました。おかげさまで五千五百二十円が集まりました。



米の放射線検査場



カボチャの収穫



昼食の様子



ダリア園



無農薬栽培のお米



昼食をもてなしてくださった農家のご夫妻

生涯学習センターで活躍するボランティアの交流研修会として、埴町(福島県東白川郡)へのバスツアーを実施しました。

訪問先の埴町では、東日本大震災から五年半が過ぎた今も、放射能による風評が農産物や観光などに影響しています。現地では米放射線検査場の見学、カボチャの収穫体験、地元のお米や野菜を使った昼食、ダリア園の見学、道の駅での買い物などたくさんの体験と交流ができました。

米放射線検査場では高価な検査機器を導入、検査の基準となる数値も大変低い数値を設定するなど厳しくチェックしており、埴町のお米は大丈夫!と確信しました。「百聞は一見にしかず」ですね。(農産物も他の場所で同様の検査を行っているということでした)

そして澄みわたる青空と緑に囲まれ

た農家の庭で昼食タイム。釜で炊いたごはんやお漬物、玄米もち、生みたての卵、窯焼きピザなど、農家のご夫妻のぬくもりが伝わる手料理の数々に、皆さん終始笑顔で会話が弾んでいました。何よりも釜で炊いた無農薬栽培のお米はそれだけでとても美味しく、みんな口をそろえて「美味い!」、おこげをねだる人までいました(笑)。

また多種多様なダリアが咲き誇るダリア園は、これまでのダリアのイメージが変わる素晴らしい所で、ダリア染めの体験やダリアのお漬物(イモ)もあるそうです。ちなみにダリアソフトクリームは埴町の道の駅でしか食べられないとか。

地元の方々の温かいおもてなしと豊かな自然に触れ、心も身体も(お腹も?)とても満たされた交流研修会になりました。



埴町の温かなおもてなしに大満足のボランティアの面々でした。